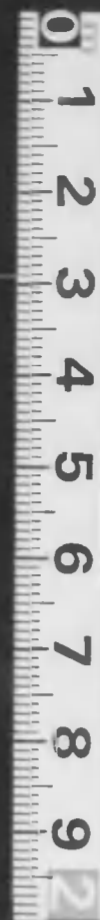


週寫
報眞

編輯部報情閣内
ンセ十・號二十七第・日五月七

支那事變二周年



支那事變二周年



日軍の波、五色旗の海
 歌呼する中国人の聲は廣場
 を賑し街を覆ふ。
 日本よ、あの日、われら
 を陳死より救ひ、わか新中
 國を焦土から甦きあげつ、
 ある日本の手よ、われらは
 いまこそ日本の情けに感し
 日本力を借しつゝ新らし
 き東亞の建設に力の限り、
 邁進することを誓ふ。
 涙れ果てた血の管に血潮
 わき立つ一億七千萬民衆の
 頭に輝かしい明日の希望
 はほらえむ。

一億一心 百億貯蓄

徵兵保險
 教育結婚保險



第一徵兵

東京銀座 本社



南京はいま清潔な水を市民に飲ませようとして
新政府の監督下に水道濾過池の復旧工事に
忙しい。支那が復興から救はれる日も近い。



攻略後十ヶ月中文の商業都市漢口の復興ぶ
りは目ざましい。目貫き通りの各ビルは足場
もガツテリと建築が進められてゐる。

上海市街のあの開北、わが軍が攻めに攻
め廢墟と化した開北も復興の歩を進める。



「新しい支那は俺等若い者の國だ」小さな大
工さんの口を突いて吐かれたこの語は抗日軍
兵士として拉致された親に別れた子が打出す
拳に力を添へる合言葉でもあった。

わが空爆に、砲撃に破壊された中山門は敵
の防線城壁から新支那建設の標本板に新装、
行人の足を止める。

蘆溝橋の鉄壁一發わが軍が直に占領した思
ひ出の一文字山はいま主要道路として建設が
進められてゐる。

戦地なる建設



撮影
同盟通信社
上海プレス・ユニオン

あの丘も、この街も敵自らの破壊に或は砲
火に廢墟と化し、支那軍を物語つた激戦地
のあそこ、こゝにはやがて生れる新しい歴史
の歩みに力強い建設が續けられてゐる。

破壊は新しい建設の前提でもあつた。過
去一世紀に互る群雄割拠による内政の不統一
から来る壓制や外力凌瀆の枉格下に一時は全
く無氣力となつた支那四億の民衆は宿命であ
つた支那軍閥を機會に、いまこそ新しい角
度からアジア民族の團結奮闘に燃え新支那の
建設に向つてゐる。

民衆の心中に燃える眞摯な建設熱は打撃
るハンマーに、捲くモッコに、打つみに、
明日への希望を刻んでゐる。

経済開発は進む

棉

米國、印度についた棉花の産地支那、河北省を中心とした種類はいま一面に棉の木が芽をふいて、満つた褐色の土の上に若々しい緑の葉がすく／＼とのびてある。

支那全土で生産される棉花千六百三十七萬ピクル（昭和十一年間、一ピクルは十六貫匁で最希約十枚分の棉）の約三分の一を産出する北支の農民はすく／＼と伸びる棉の木の生命に新支那の息吹を感じ、「平和米」を願って、事業前棉花の出廻り四百五十萬ピクルあつ

た北支は戦火の餘燼未だ治らなかつた昨年まで三萬三千三百三十萬ピクルの出廻りをみせ、先づ棉花は經濟建設の花形となつた。

従來買が盛んといはれた支那棉も、品種が次第に改良され、年々増産の一途を邁つてゐる傾向にある。

棉花資源を全部外國に仰いでゐた日本は支那棉花の大量出廻りと同時に、東亞新秩序建設に手をたづさへて進む仲間の中から相當多くの棉花を得て有無相違する經濟結合の實を遂々と收めてゆく。



長閑な五月の空、彼等は畑に出て棉花の種子を播いた。夫は馬で畑耕せば、妻の手から種子は静かに大地のふところへ。

秋の收穫を胸に子供等は若芽の間引に忙がしい。

廣漠たる畑に棉の芽は伸びる。

大陸の殘暑はきつい。九月のとり入れと同時にむせ返へる暑さの中で棉花の種子をとる。

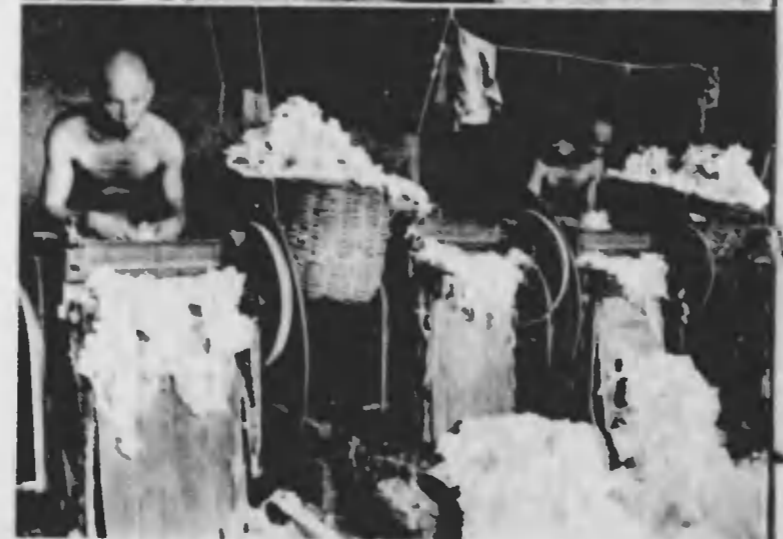


晋縣から横出す棉花は馬車に引かれ、無地平線に没す。

棉花の相場は一ピクル約六十貫匁見當である。買取人の秤る手許に一瞬六ヶ月間の努力の眼が注がれる。



北支河北省の小さな部落から棉花は晋縣の取引場に山と運び込まれる。





加工場は黄色がかった原色を白色に晒す。純白の綿は紡がれ綿糸となる。

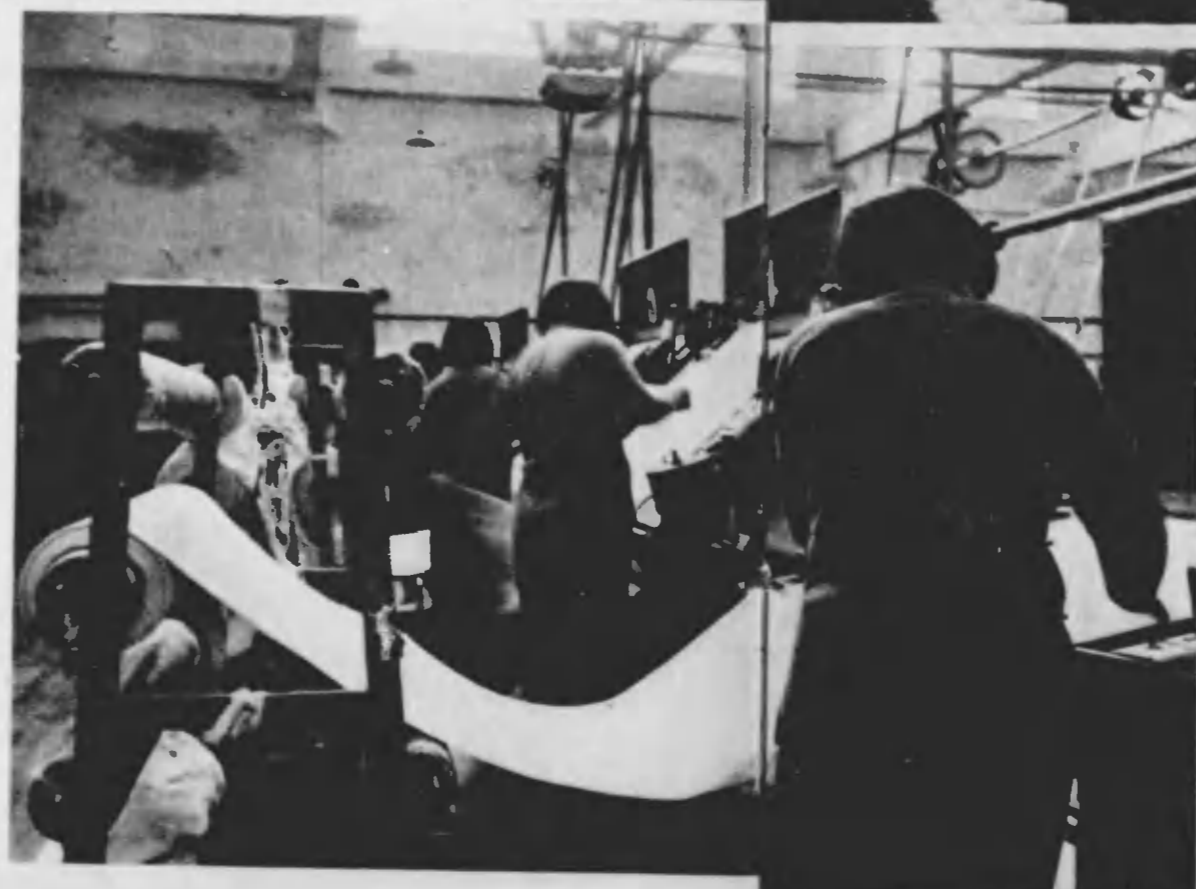
経済開発は進む

支那の棉花生産は各地の治安と交通の改善から従来自家用とされてきたものが、紡績原料に廻り、いまや棉花は商品としてどんく廻りてゆく傾向となつて来た。こゝにわか上流の紡績、紡績事業は活発となり、その製品は殆ど全部が支那内部に廻かれてある。従つて支那が、いままでわが国以外の第三国から輸入して来た綿糸は必然に減少、自給自足による経済機構の健全な運用が徐々になされつゝある。



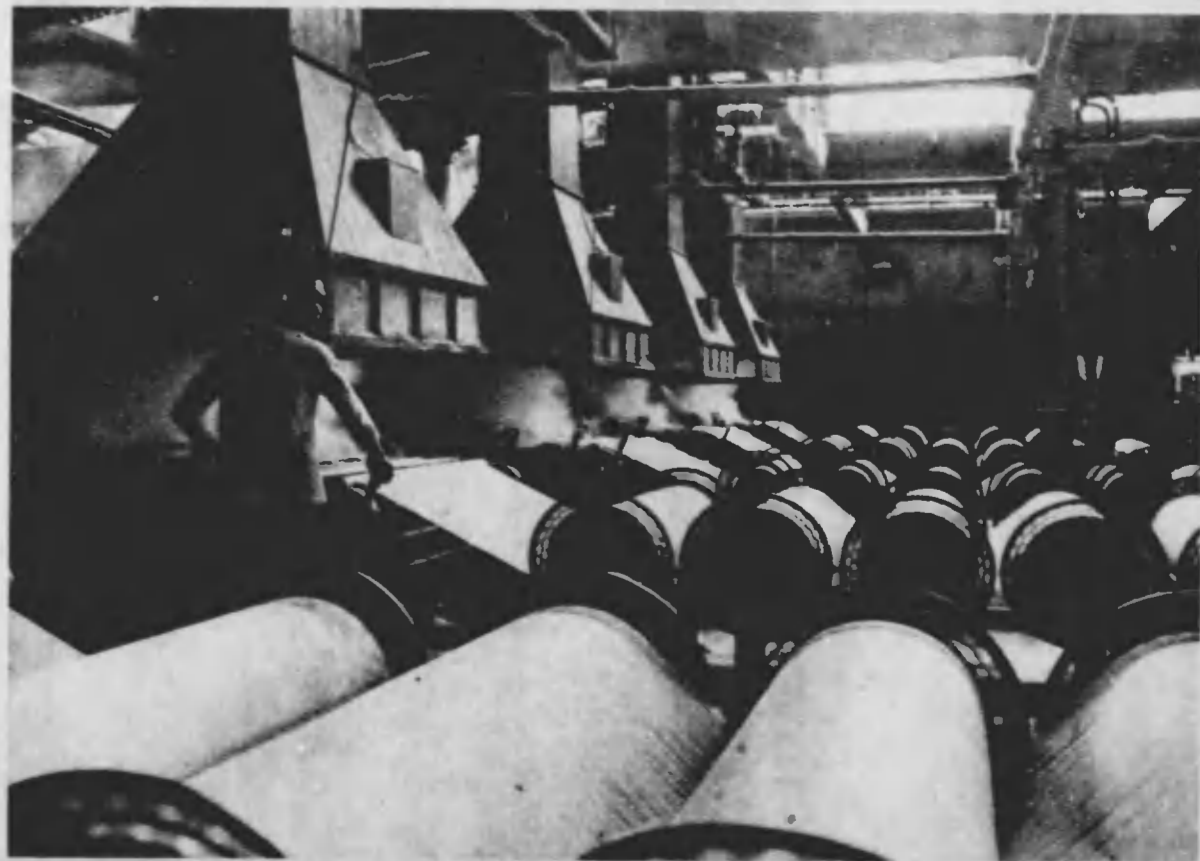
綿糸は出来上つた。疵はないか検査場では紡績の女工が電燈に透かして調べる。

年々増産を迫る棉花ともなつて紡績も活発となり綿糸は山の如く生産される。

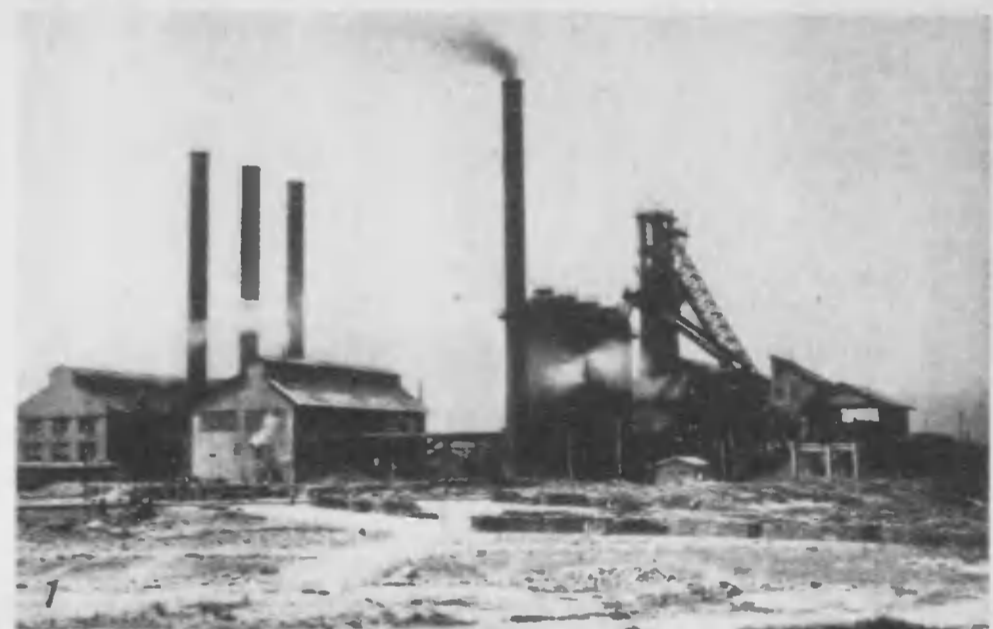


上海のわが東洋、上海南紡績工場は最新の設備を施し製糸に全機能をあげてゐる。見渡す工場は紡績機、繰紡機、精紡機が一齊に動いてゐる。

製糸機に捲かれた綿糸は廻りつけし製糸する。布に織る製糸の準備工作に職工は忙しい。



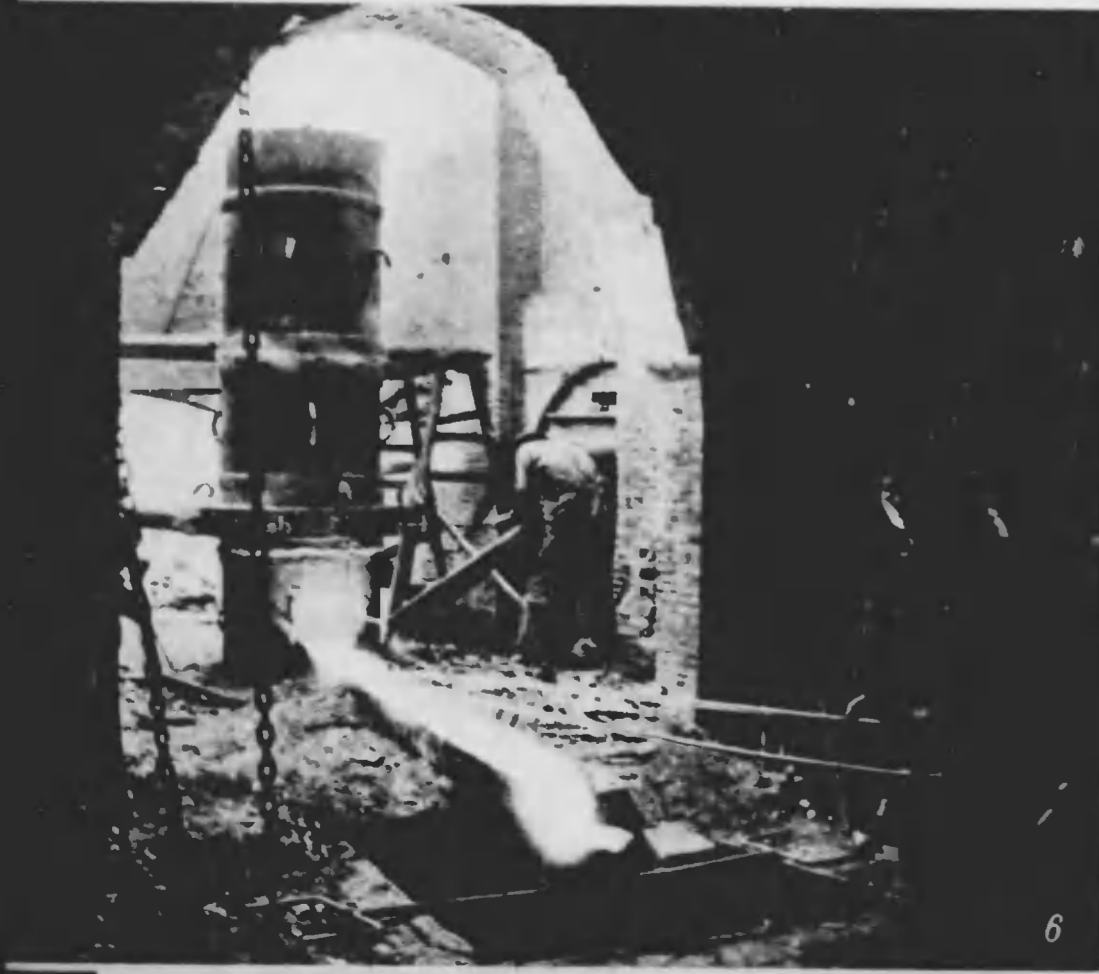
石	鐵
炭	と



兵火のあとに河北省の石景山製鐵所は昨年
末、火入れをし増産はうごきたした。戦禍
に運つた送風機その他の修理も今は全くなり
日本製鐵會社と興中公司との協力で鉄鑛の生
産擴充に奮闘がつゞけられてゐる。
鐵鑛は龍烟から、コークス製造用の石炭は
井陘と六河溝から、石灰は石景山の附近から、
それ／＼運ばれ、東亞經濟ブロック建設の力
強い産業を象徴する黒煙はこゝ北支の一角に
もあつたのである。
上海の對岸、浦東にある中山鑛鐵爐も石景
山について動きだした製鐵所である。
なほ、これらの鑛は主として大陸の需要に
あてられてゐる。



1.2は石景山製鐵所。
3.4は井陘の炭坑。
5.6は浦東の中山鑛鐵爐。





復興した
眞茹無電臺



眞茹無電臺の普備
につくわが兵士
海外通信
に活躍する支那
人オペレーター



事變當初、國際通信界に蔣政権一派のデマ放送を一手にひきうけ、支那の眞茹無電臺を復活させた上海西郊の眞茹無電臺。その強力な大指向性アンテナとたちどろ電波を遠く送る能力は、昭和十二年十月廿六日、大電報機攻撃とともに兵火を蒙り、徹底的に破壊されてしまった。

その後、かやかししい新東亞文化建設の一翼として日支協同事業の軍中電氣通信會社が創立され、日支協同事業の復興の努力は遂になり、五月五日、維新政府の治下に重要な新使命を帯びて日本國産機による眞茹無電臺の復元が開始され、上海、東京、事變前に倍する強力な米國及び日滿獨逸との交換通信がすでに開始され、上海、東京間の眞茹無電臺もこの秋には完成する運びにまでなり、日支兩國技術者のたのしい協力がこころも誇らかな讃歌をあげてゐるのである。

桑港にむけ、マニラにむけ、大阪にむけ、新生支那の通信は活潑だ。
對米通信機のスウェッチを入れる支那人技師部員。



事變第二周年を迎へて

陸軍省情報部

支那事變發以來既に二ヶ年を経過し、茲に早くも第三年の七月七日を迎へるに至つた。この間、陸軍省の指導の下、軍隊の勇戦奮闘と戦後民衆の一致奮闘とによつて、武漢を以て支那本土の軍地地帯が手に落ち占領地帯はわが帝國全土の二倍に及び、一億數千萬の支那民衆は、茲に始めて身恩に浴するの機に浴した。今や東亞の天地の一角に新秩序建設の礎石を播き、として強り始め、われ等はこれ二ヶ年の戦々たる戦果を追憶するに當り、先づ以て大業の人柱となつた六萬の英靈に感謝の誠を捧げねばならない。

敗をつげ、さきごろわが大本營から發表されたやうに、敵の損失死傷累計は二百三十萬、飛行機二千餘機、大砲一千二百門に達する事實によつても支那軍の受けた打撃が如何に大きかつたか、推察される。蔣政権はかうした相つぐ敗戦にも拘はらず、今尚ほ執拗な抗戦を繼續してゐる。敵は武漢喪失を對日消戦の第一期、それ以後を第二期とし、目下反抗戦準備時期と稱して、第三期到来せば攻勢に轉じ、一舉に日本軍を東海に覆滅せんと豪語し、意氣なかなかに此とすべきものがある。かくて軍の再建に努力した結果、今日蔣の兵力は再び百五十萬に達したやうであるが戦費喪失、また裝備の補充意の如くならないため、戦力の低下は著しく、先づこの南昌、漢水作戦の経過がよく之を實踐してゐる。この大敗の責を負ふべき蔣介石始め黨要人が、今日依然としてこの職に侍り得るところに支那の支那らしいところがあり、彼等が今尚ほ

四川の奥地に生を保持するところに、支那大陸の廣大さが窺はれるのである。かく大打撃を受けた支那軍としては、消極的抗戦、所謂遊撃戦以外に抗戦手段がない。この遊撃戦法も支那ならばこそ二年も三年も續けられるのである。然し抗戦によつて民が如何に苦しまうとも蔣の關知する所ではない。敵は弱兵になつたといへば、廣大なもの、支那大陸に焦土作戦を敢行する以上、その潰滅の困難なことは必然である。抗日勢力の潰滅は全土に亘つて日夜を分たず進行されてゐるが、討伐の勞苦は華々しい決戦の苦しみと勝つとも劣らない。長途而も大陸の炎暑、寒風、大雨、一滴の水なく、而も降雨一降れば泥流を液し、車輛は輾じ覆り、雨水は肌を迫る。會々想ふも人家に人なく食なく、饑と絶の懸崖に墜ち、夜暗となれば敵に秘匿しての迂回行動、全軍隊として聲なく、唯野犬の吠ゆるのみ。かくして地帯の事は切つて落されるのである。凡ゆる困苦敵を克服した報ひとして始めて討伐戦が開始される。われ等は日々傳へる新聞、放送等の一つ一つに就いてこの勞苦を分つ氣持を忘れてはならない。

蔣の奮闘は報ひられつゝある。即ち現地の治安は日一日と明朗化しつゝある。これを一年前徐州會戰當時に比べると非常な發展といへる。阜寧の恩威に服し、隨順したるの鎮鎮に五千、山西に二萬、河北、河南には皇軍軍生れ、山東に二萬五千、中支那に四萬五千計十萬を算するに到つた事實は特筆すべき事ではないか。

然し治安の現状は到底現状を以て満足し得ない。治安の確立には今後長年月を費さなければならぬが、事變第三年には現状より更に進展を見るべく、軍は全力を以て努力することとなる。

蔣の國民政府が、相つぐ敗戦と窮乏



しめた。今や西南援蔣ルートは佛領印度支那、英領ビルマに向つて萬里を排して建設されつゝある。

かく事變の前途には東亞新秩序建設の進むに伴ひ、東亞に存在した不逞勢力との衝突は今後激化が豫想される。

かく、東亞新秩序建設の敵抗日勢力の現状を檢討して見る時、われ等の明日否今日に實に國家存亡の岐路に立つてゐることを痛感せざるを得ない。支那大陸に於ける殘存政権に武力制を加へ、わが占領地域内の治安を確立し、尙ほ更に國際情勢に處して遠慮なきを期せんがために、萬難を排して軍備の基礎をなす綜合國力を擴充し、國家總動員の諸態勢を強化しなければならぬことになる。支那事變が凡ゆる部門に長期戦たる特質に備ひ、たゞかひは急々之からだとの國民的戦意を更に昂揚し、来るべき大困難を突破するの決意をかたむることが第三年に入るに方つての責務でなくてはならないと考へる。



いく度か兵火をうけた大
地も、主の歸りを待つてお
た。打ち込んだ敵から放つ
なつかしい土の香が、この
一家の心を二年前の「吾が
家」にひき戻した。父と母
と三人の子は日の丸のもと
に別取られるこの秋の牧種
を夢みてゐる。家も直さう
取も同じやう。





鉄路は伸びる

資源の開発、産業の振興には何といつても交通機関の復舊發達が先決問題である。支那軍は退却の際にはわが軍の急進を恐れてきまつて鐵道や道路を破壊してゆく。橋といふ橋は全部破壊し、築きはらひ、鐵道はレールから枕木まで持つて逃げる。これを後から後からと修理してゆくわが軍や、現地派達の鐵道復舊従業員の苦勞は大へんものである。しかし、その敢身のな努力と科學日本の優秀さはつひに凡ゆる困難を征服して、占領地内の交通を事業前よりもむしろ更にしたさへいへる。



1.2 中支には昨年十一月中華都市公共汽車会社が設立され、上海、南京等八都市にバスが開始した。支那で汽車といふのは自動車のこと車站(停留所)にバス待つ姑娘も、日本式にカバンを前にさげてサーブイスする姑娘のバスガールもここに新支那を點綴する。

3.4 敵の遊撃隊はいまもなほ鐵道をねらつて出沒することがある。わが對僑兵は興亞建設の生命鐵道を護るためにも晝夜戦として警戒の眼を離さない。

5.6 わが陸の荒鷲に繰り返し、繰り返し撃たれた津浦線の保定駅も占領後一年八月、すつかり復舊した。浦口發北京行き列車が貨客を満載して到着した。

7 上海—南京間を結ぶ海甯線は急行六時間、兩都を結ぶ、海杭、蘇嘉甯線も修理が出来た。農夫も商人も夫々仕事に忙しくなつたためか、どの列車も満員の盛況だ。



院容美トンサレス

かつては熾然きはまる抗日の據点だつた山西の首都、太原府。この太原の街にも、皇軍の日章旗がひるがへつて一年有半、平和はよみがへり、臨時政府の治下九萬の市民はすすらかに業に勵んでゐるが、この支那市民に伍して、大陸で一はたあけようと熱意に燃える日本の商人が續々とこの街に進出、目ゆきの通りにペンキ看板の匂ひも著らしい店舗を次々とかまへ出した。在留邦人の数は六月の調べではすでに六千人を突破、日本色、日本風景の氾濫がいたるところに見られる。然し、このやうなおびたらしい日本人の大陸進出に混つて一部の不徳商人、内地を喰ひつめて大陸にボロいもうけでもといふ火事場かせぎ的暴見の日本人がゐるといふ以てのほかの香ばしくないニュースもつたへられる。大陸に渡る日本人はすべて興亞大業の英兵たるべき覚悟と抱負をもつ立派な日本人であつてほしいといふのが現地當局の儼たる希望である。



日本色 商賣往來

太原



和洋菓子茶泉堂





建設途上 中支を

興亞院事務官 土屋 四郎

五月八日午後三時、太平洋は静かに黄浦江の公和祥棧橋に横付けされた。私は興亞院中華連絡部の王氏やK氏に出迎へられて大陸への第一歩を印した。直ちに自動車に乗って華中連絡部に赴き津田長官以下の人々に挨拶を交わして華中連絡部にお話を伺う。華中連絡部は数日前に新設された海軍陸戦隊本部と道一つ隔てた隣りの三階建てのビルに引越した許りであった。いふまでもなく華中連絡部は中支の新政権である維新政府に協力しながら、中支に於ける政治、経済、文化の各方面に亘つて、日支の提携、共存共栄を主眼とする新しい制度や組織の建設を使命とする興亞院の現地機関である。

華中連絡部の上海は、今のフェニックスのやうに盛衰の中から復興を、新しい発展へと雄々しい努力をしてゐる。宛も、中支の建設は大上海より、といつた恰好である。わが無敵海軍陸戦隊精士の力強い警備によつて治安もよく確保されてゐる。事變後中支へ進出する日本人も著しく多数に上り、昨今では上海の如き既に事變前の二倍以上の五万人に達してその結果物産も倍々増進してゐる有様である。

上海には中支の經濟建設を振興助長することを使命としてゐる中支振興株式会社があつて大上海を中心としてゐる中支の經濟建設に積極的の活動を續けてゐる。既に同會社の投資してゐる子會社も、上海恒産會社、華中水電會社、華中製糖會社、華中電氣通信會社、華中水産會社、華中製鐵會社、華中鐵道會社等の多數に上り中支振興會社はこれらの子會社を通じて中支に於ける都市計畫や電氣、水道、通信、交通等の公共事業や中支として又日本との關係からも重要な水産事業や製糖等の振興助成を圖つて、中支經濟建設の大黒柱的役割を演じてゐるのである。



興亞院事務官 杉山知五郎

五月二十六日、船で廣東へ、その後の廣東の街はどうなつてゐるたらうと色々興に想像を描きながら珠江を渡つて、廣東に到着。廣東の街に入つて驚いたことは人が非常に増えたことだ。去年の十二月二十日治安維持會が誕生して市街の治安が維持されてからは元々廣東に住んでゐた支那人住民は次第に家財を持つて歸つてきたのだつたとあつてゐる。凡そ調査では廣東全市の人口は六、七十萬にもなつたといふことである。

珠江から南の地域はその復興に未だしの感はあるが、珠江から北は中々賑やかなものだ。日本人の經營する飲食店、雜貨店等もなつかしい日本流の看板を掲げて繁昌してゐるし、映画館には日本の映画がかつてゐて、有名な俳優の寫眞がすうりと置込んでゐるのもうれいものだ。この飲食店に入るとよく中庭には椅子や檯子等の熱帯植物が鬱蒼と茂つてゐる。この下でテーブルを圍んでアイスクリーム等を食べてゐると、いかにも熱帯地方に來たやうな興趣があるし、戸外の暑さはすつかり忘れて實に涼しい。廣東の雨期(三、四、五月頃)は連日晝を滴らすやうな雨でやり切れないが、六月、七月頃になると、空気が乾燥して、暑いことは暑い、かういふオアシスがあるから戻つて住みたい。

日本人が殖えて、日本語が幅を利かせる、新聞も支那字新聞(廣東迅報)の他に日本語新聞(南支日報)が發行されてゐるが、支那住民の間はこのころは日本語熱がしきりに勃興してゐる、例へば、支那人經營の飲食店へ行つて我々が下手な支那語や英語でばつり注文をばしめると、給仕の姑娘が鮮



復興する南京の街

處かに隠れてゐるが、戦争が止むと、またすぐ戻つて來て、繁々として土を耕すのである。彼等には蔣介石も國民黨も、共產主義もない。唯、あるのは土に働くことのみであるやうだ。この動亂な、この正直な、この無智な支那の農民に、農村に、本當の幸福と秩序を齎してやることは確かに一つの大きな尊い仕事でありそこにこそ本當の新しい亞細亞建設の鍵があるのだ。草率占領地内内の秩序に信頼してかうして復興した農民も今では九割以上に達してゐる。小麦と大豆と茶葉が殆んど全部である沿線の農作物は何れも良くもつて農民を喜ばせてゐるとの事だつた。今後はこの農民に技術と、合作社等の協同組織とを興へて、農作物の品種改良や、販賣、金融等の方面を改善してやることが農村振興の要諦でなければならぬ。

維新政府の所在地南京
南京陥落後既に一年半餘、政治都市南京の秩序もすっかり回復され、今は維新政府の所在地として中支建設の政治的中心となつてゐる。人口も五十萬以上に増加した。この街は元來政治文化の中心地であるから商業的繁榮さはないが、道路等も舗装され市街も整つて落付いた街である。蔣氏時代には大いにこの方面の意を用いたとの事である。附近には丘陵が多い。これらの丘陵は何れも南京城攻め時に於て、軍事將士の奮血を流した流血地とて、思はずに正し地下の英雄に感謝の歌を捧げた。南京の上流無流は長江流域に於ける有数の米の集散地である。

漢口の復興ぶり
漢口は揚子江流域に於て上海に次ぐ大貿易港だ。長江と漢水を隔て、政治、軍事の都市武昌と工業都市漢陽が鼎の足形をなして事變前は頗る盛況を極めた所だ。昨秋早軍の武漢攻め後半年に過ぎないが、舊に武漢特別市政府も成立を見武漢の復興に汲々しい努力を續けてゐる。事變後支那人の復讐する者も多く漢口の人口は既に八十萬人に達してゐる。日本人も相當に進出してゐるやうだ。元來、漢口は四川、湖北、湖南、河南地方の物資、就中雲南四川省の物資の集散地であつて、其處から上海に出で外國に輸出されるのだ。事變前漢口から漢口に出でた重要物資及びその數量をあげると、

棉花	二〇〇萬ピクル	生漆	四萬ピクル
桐油	一〇〇萬	牛皮	一三〇萬
茶	一〇〇萬	胡椒	一〇〇萬
糖	一〇〇萬	藥煙草	四〇〇〇萬ポンド

五月三十一日、海口に入る。この港は海が浅いので、沖で荷揚げをしたり、人を降ろさねばならぬ。所が、波が高い時が多いので荷物を艇に積り降ろすのも、船客が艇に乗り移るのも中々困難との話だ。海南島ではこの頃から秋へかけて季節風が非常に強く吹く。はじめのうちはこゝから香港の方へ吹きつけるが、これが次第に方向を轉換して九月の二十日頃には内地へ向けて恐ろしい颶風を送る。百二十日頃にしては五月の中旬ごろから十月頃までは毎日のやうに強い風が海南島に吹きつけるので、海上交通は困難を極めるとし、殊に、農作物はいつも危険に曝されてゐることになる。

海口市の貿易状況は試みに昨年ものを調べてみると、輸出が三六一萬弗(法幣)輸入が四二七萬弗、差引六十六萬弗の輸入超過になつてゐる。この不足額は何で補つてゐるかといふと、海南島からは約十萬人の華僑が領印度支那、シンガポール方面等に出稼に出てゐて、これら華僑からの送金が毎年四百五十萬弗から六百五十萬弗に達するので、これだけの輸入超過があつても平氣といふわけである。輸移入の主なものには砂糖、豚、牛、皮、油、糖、米、豆、タバコ、マツタ、大豆、洋雜貨等であるが、經濟上の調査はまだ行き届いてゐない。

海南島はマラヤの島だ、氣をつけたいと生命を落とすと、おどかさされて來たが、さて來てみると、それほどではない。成程、政を避けるために、何處でもう救済を出つて來てゐるが、奥地ならいさ知らず、日本人が住まうといふ位位所ではそれほど危険はないといふことである。その上、警備の皇軍在任日本人のために臺灣から醫者がやつてきて、豫防に洽に當つてゐる。南進日本がかつて臺灣統治に際して蓄めた熱帯病に對する苦い経験が、いま更に一躍南進した大和民族の健康保持に大いに役立つちつちつある。

いやや、不逞分子に此の運動を許さぬわが武力が建設力の偉大さを目の前に見れば廣東人の日本人に對する認識は改まるを得まい。宣傳も善い中を活躍してゐるが、宣傳をうける支那人の表情を見ると、占領當時の敵愾心が次第に融け去つて來てゐる。

味香なかや爽のしまのを實果鮮新

スーエジ治明

快い舌 触り
夏の一 お飲みの

アップ
パイ
ブルグ



明治製菓株式会社

支那事變南獲物品調査



昭和十四年五月調
大本營陸軍部発表による 戦車・装甲車等 627

復習室

- 本號からあなたは何を學んだてせうか？
- 左の問題は總て本號の中にあります。さあ、復習をやりますせう。
- 1 上海 南京間はいつ急行列車で何時間か、りますか？ (15頁)
 - 2 蘆溝橋は何省にありますか？ (3頁)
 - 3 親日教科書は主としてどこで印刷されますか？ (18頁)
 - 4 上海の街をゆくとき公共汽車「車」の書いた標札が立つてゐます。どういふ意味ですか？ (14頁)
 - 5 海口の貿易は輸入超過になつてゐますが、この不足額は何で補つてゐますか？ (23頁)
 - 6 維新政府の所在地はどこですか？ (22頁)
 - 7 真茹無電報はどこと通信してゐますか？ (10頁)
 - 8 石景山製鐵所はどこが經營してゐますか？ (8頁)
 - 9 漢口の人口はいまどの位ありますか？ (22頁)
 - 10 支那で特産される棉花は一年にどの位ありますか？ (4頁)
- 右の問題、一問十點としてあなたは何點でせう。

★ 復習室

帝義、四千年の昔、天子の名も知らず鼻をうたひながら土塊を耕す農夫の物語は治國の理想としてながく歴史に傳へられた。今とりいれをすればかりのむせるやうな小卒の束を前に四千年の昔の血をそのまゝ、繼ぐ大地の子は、考へず願せず、たゞ胸から腹に深く吸ひこむ安タバコの一服を楽しむ。

撮影 同盟通信社

寫眞週報(禁轉載)

昭和十四年七月五日印刷發行

編輯部 内閣情報部
東京市神田區永田町
大塚町大塚會社
印刷部 内閣印刷局
東京市神田區大塚町

所 込 申	價 定
一	十
半ケ年(前金)	二圓四十錢
一ケ年(前金)	四圓八十錢
牛ケ年分米滿尾船寄附の方は一割十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい	
内閣印刷局發行課	
電話丸の内三三三一九	
振替東京一九〇〇〇	
全国各地官報販賣所	
東都書籍株式會社	
各書店・洋書店	
各新聞販賣店	
寫眞材料店	





觀光滿洲

内地・朝鮮から
往復・回遊汽車賃

單	獨
...
...
...

詳細は滿鐵鮮滿支案内所へ

- 東京丸ビル 同赤坂葵町
- 大阪辨館 名古屋廣小路
- 門司税關前 下關驛前
- 新潟古町通

滿鐵鐵道總局

熱河承德の避暑山莊

滿鐵鐵道總局
昭和十一年七月五日發行
第一四六〇日發行
第七十二號

内閣印刷局印刷發行

(附録「軌道」・A4掛紙定規はき大の書本)